

# 出力20kWバイナリー発電装置を発売

I H I

IHIは、商用電源に接続可能な系統連系機能を標準装備した、パッケージタイプの小型バイナリー発電装置『ヒートリカバリー“HRシリーズ”』を商品化し、8月8日（木）に販売を開始した。

新製品は、主な特長として、従来、熱エネルギーの回収が難しいとされてきた工場などにおいて、分散して排出されている100℃未満の温水を、集約せず個別に回収して使用できる。使用する温水・冷却水の温度・使用量に応じて数kW～20kWの発電が可能である。



出力20kW小型バイナリー発電装置

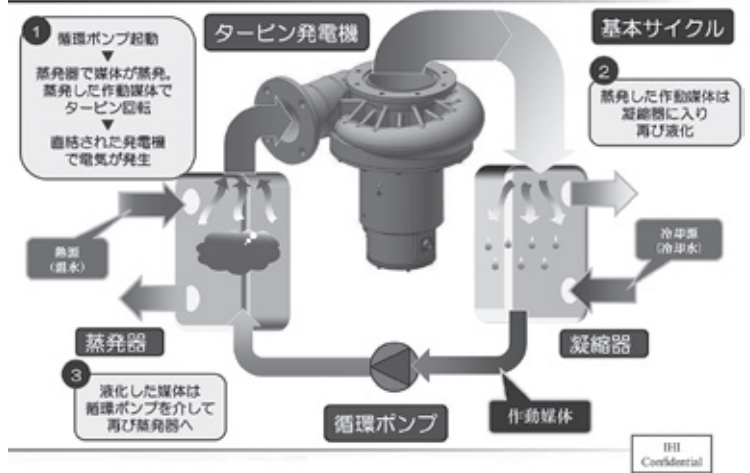
今後、各種工場、温泉地、自治体などに向けて、年度末までに、20台以上の受注を目指す。市場価格1,000万円前後の予定。

そのほか、主な特長としては、パッケージのサイズが幅約2m、奥行き約1.4m、高さ約1.6m、重量約1,900kgと小型化、軽量化を実現した。施工工事の際は温水出入口配管、冷却水出入口配管、電源系統の接続だけで済むなど容易な取付けを実現した。

タービン発電機は直結構造を採用したことで騒音も少なく、装置の振動もほとんど無いなど低騒音、低振動を実現した。タッチパネルですべての操作と内部状態の確認が可能であるなど操作性を向上させるとともに、温水と冷却水を流して起動するだけで自動で発電を開始できるなど起動性も向上させた。

また、作動媒体には、電気事業法の小型バイナリー発電の規制緩和に適合した、フッ素系の不活性ガス（HFC-245fa）を採用。70℃～95℃の温水からの発電が可能。工場の冷却水の平均的水温とさ

## サイクルシステム



れる30℃でも、温水が95℃あれば最大発電出力を得ることができる。

まとまった温水が排出される工場や温泉地に複数台設置した場合、温水を各装置に分散させて、個別に発電することも可能。メンテナンス時には本装置を一台ずつ停止し、他の装置で発電することにより、発電装置の稼働ロスを最小限に抑えて効率良く運用できる。

さらに、系統連系機能を標準装備したことで、温泉地での再生可能エネルギーの固定買取制度の適用を受ける際にも容易に対応できる。発電装置に搭載したタービン発電機については、装置の小型化に加え、産業用コンプレッサ事業を通じて培ったターボ機械技術と、増速機などを使用せず直接動力を伝達するダイレクトドライブ技術（直結構造）を採用し、低騒音、低振動などを実現した。



タービン発電機

問い合わせは、IHI広報・IR室（☎03-6204-7030）。